第３３回　藤枝市総合教育会議

日　時　令和８年 10 月 16 日（金）午後２時 30 分～
場　所　藤枝市役所西館３階　特別会議室

次　　第

１　開　会

２　市長あいさつ

３　教育長あいさつ

４　協議事項

成長を見える化し、自立心を育む登校支援教室

～「MY・F シート」による評価の活用～

（別添資料）

５　閉　会

成長を見える化し、自立心を育む登校支援教室

～「MY・F シート」による評価の活用～

１趣旨

登校支援教室は個に応じた指導や支援をすることによって、学びの保障に加えて居場所の確保ができることで、社会的自立（学校・学級復帰を含む）に向けた支援の場となることを目的に令和４年度に中学校全校に配置された。小学校への設置も進み、現在市内 17 校に設置されている。その成果として、不登校児童生徒の発生率は国や県は年々増加傾向がみられるが、本市は減少傾向にある。そこで、来年度より更なる登校支援教室の機能を充実させるため、個に応じた支援を行う中において児童生徒の学びや活動の評価を「MY・F シート」を活用して行うことにより、児童生徒自身が自らの学びに手応えを感じるとともに、次の学びへの意欲や自信、自己肯定感を高め、自立心を育んでいく。

なお、ここでの「評価」とは、いわゆる「成績」のための評価だけでなく、主には児童生徒の活動を価値づけ、今後の活動へと支援する方向性を定めるための評価をさす。

２登校支援教室設置の成果と課題【〇成果　●課題】

■ 不登校児童生徒発生率

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
藤枝市（小）	**１．２％**	**１．７％**	**２．２％**	**２．１％**	**２．１％**
島田市					**２．４％**
焼津市					**３．４％**
静岡県（小）	１．４％	１．８％	２．７％	３．０％	未発表
全国（小）	１．３％	１．７％	２．１％	２．３％	未発表
藤枝市（中）	**５．０％**	**５．４％**	**５．８％**	**６．５％**	**５．７％**
島田市					**７．６％**
焼津市					**９．３％**
静岡県（中）	５．９％	６．３％	７．６％	７．７％	未発表
全国（中）	５．０％	６．０％	６．７％	６．８％	未発表

〇 登校支援教室を設置した令和４年から国、県と比較して藤枝市の不登校児童生徒の発生率は減少している。令和７年度末では、島田市や焼津市の発生率を大きく下回っている。登校支援教室及び藤の子教室の設置による不登校児童生徒の支援及び不登校の未然防止により、上昇率が抑えられている。

島田市は、19 校中７校に登校支援教室を配置し、焼津市は 22 校全校に登校支援教室を配置している。どちらの市も「指導」ができる教員免許をもった指導員は３名程度のみの配置となっている。しかし、藤枝市はすべての登校支援教室に教員免許をもった指導員を配置しているため、児童生徒に効果的な支援がなされている。

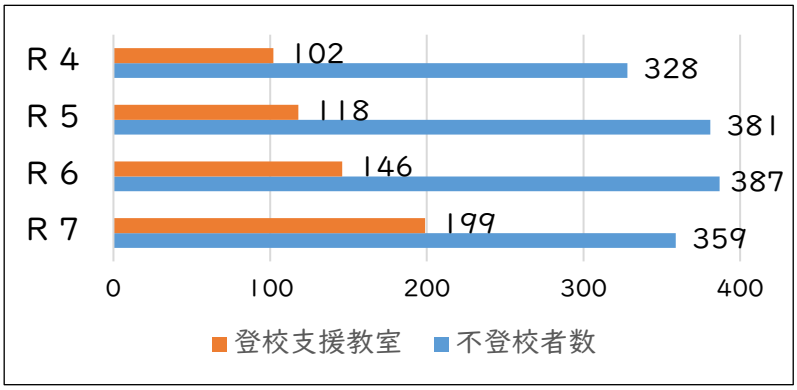
■ 登校支援教室の設置と不登校児童生徒の人数における登校支援教室登録者数

令和４年度　中学校全校配置

令和６年度　小学校２校配置

令和７年度　小学校４校配置

令和８年度　小学校１校配置

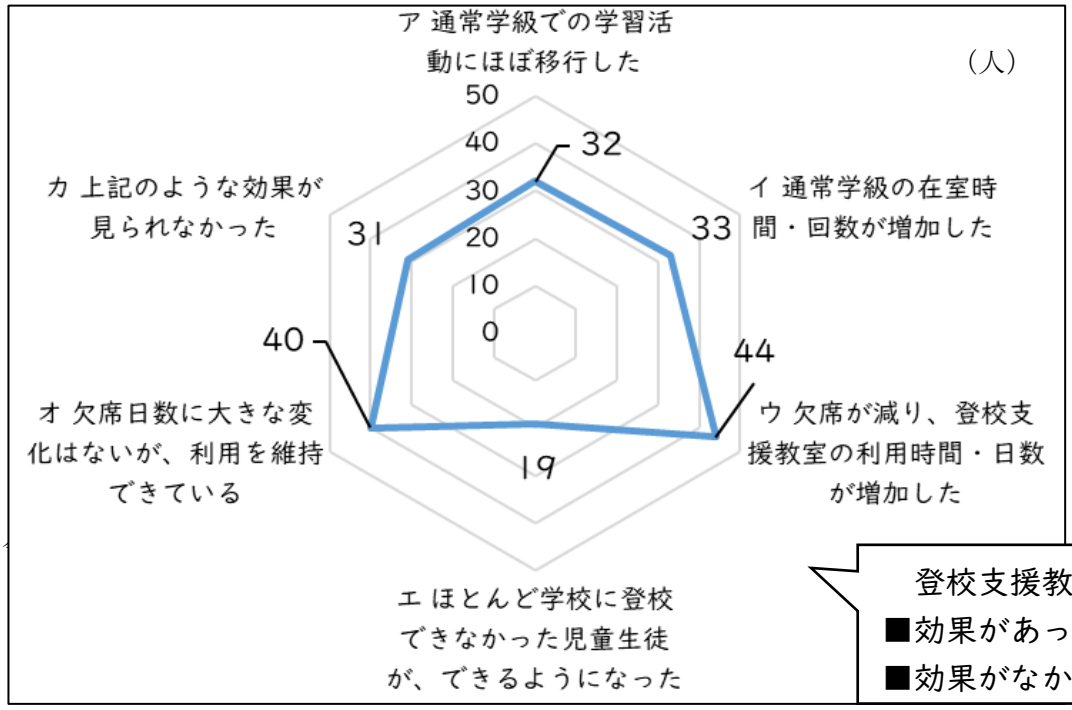


○ 令和７年度時点で、不登校児童生徒の約 55%が登録しており、年々増加している。学びの支援につながっている生徒が多くいる状況にある。

○ 令和８年度設置した藤枝中央小学校では３人が通級しており、令和７年度にそれぞれの児童の昨年度の欠席日数は 148 日、131 日、153 日だったが、現在不登校にならず登校が続けられている。

● 残る 10 校の登校支援教室が未設置であり、支援が行き届かない児童生徒がいる。そのため、残った 45%の不登校児童生徒への支援を引き続き行っていく必要がある。

■ 登校支援教室設置の効果（令和８年度調査）



登校支援教室設置の効果
■効果があった → １６８人
■効果がなかった → ３１人

○ 登校支援教室を設置し、前向きな変容があったと考えらえる生徒は 168 人であった。

● 変容が見られなかった児童生徒は 31 人であった。しかし、変容が見られなかった児童生徒については、学びの支援や居場所の確保よりも休養が必要な状況もある。藤枝市教育支援センター「藤の子教室」に支援をつなげていく。

今後、児童生徒をより前向きな変容につなげるために、以下「ＭＹ・Ｆ シート」を活用

した取り組みを全校での実施を来年度より行っていく。

３「ＭＹ・Ｆシート」について

登校支援教室での活動を「ＭＹ・Ｆシート」に記録して児童生徒の活動を評価することにより、自立心の向上を図り、多くの教職員と接する機会を増やし、多様な人との関係づくりや社会性、自立心の育成につなげるため、Ｒ８年９月から登校支援教室が設置されている 17 校でスタートした。

「ＭＹ・Ｆシート」とは、学習面、生活・行動面、家庭との連携の３つの項目において、児童生徒の得意なことや苦手なこと、課題や願いを聞き取り、本人と保護者、教職員が一緒になって長期目標や短期目標を考え実施していくためのシートである。シートには「気づき」の欄があり、日々の生活や学習の記録、保護者との面談の記録も積み重ねていくことができる。「気づき」に記載された内容は、生活や学習の評価に活用することもできる。

令和 8年度　**MY･F シート**　年　組　番　名前(　　)

	学習面			生活･行動面			家庭との連携		
	好き得意	理科　保健体育		好き得意	ピアノ、ダンス、漫画･本を読む		願い	高校進学を希望している	
	苦手課題	英語		苦手課題	1人でいること				
長期目標（今年度）	3年生までに教室復帰			3年生までに教室復帰					
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
短期目標（学期）	社会に必ず出席する			帰りの会に参加する					
記入日 YYYY/MM/DD	気づき			気づき			気づき		
2026/5/11	国語	漢字		時間通りに登校し、時間通りに動ける。提出物もきちんとだす。					
	理科	ワーク		AさんBさんとも話したり、基本的に誰とでも話ができる。話がしたくなってしまうのか定期的にわたしの机の前で					

登校支援教室に通う生徒と保護者と面談を行い、「ＭＹ・Ｆシート」を示しながら目標を三者でたてるかかわりにおいて、「今まで登校支援教室で何をしているかわからなかったから、評価をしてもらえてありがたい」という反応をもらっている。

今まで、登校支援教室に通う児童生徒については、通知表で「資料不足により、評価・評定いたしません」と書かれていたものを受け取ることが多かった。しかし、先行実施した中学校では、通知表として生徒、保護者に示しており、登校支援教室での活動が自立心を育むことができている。

このように、「ＭＹ・Ｆシート」を通じて、児童生徒とその保護者と指導員や教員がかかわり合うことができるようになった。

学習のあらわれ	
国語	・漢字の書き取りでは、丁寧に何度も書く姿が見られました。小３から小６の漢字の書き取り１００題をノートに書き写し、読み書きを２回ずつ丁寧に書いていました。書き写しミスが無いよう心がけて取り組んでいました。 ・職場体験の手紙の内容を指導員と一緒に考え、下書きを書きました。書き間違いを減らすため、確認をしたり、直したりしながら進めることができました。
数学	・掛け算や繰り上がりの足し算に取り組みました。 ・中１の内容の文字式では、同類項をまとめることができるようになり、２x－５x＝３x のような問題を解き進めました。正負の数の加法が安定してできるようになり、正答率が高まっています。 ・中２の内容の文字式の計算の（２ｘ＋３ｙ）－（５ｘ－２ｙ）のような問題では、

生活のあらわれ
・チャレンジ教室では、友達と関わりながら、明るく過ごす様子が見られました。 ・チャレンジ教室の友人と話し合い、参加する予定のなかった国語の授業に行くことができました。 ・職場体験の自己紹介カードを持ってくることを忘れたと、担任に伝えることができました。後日、その用紙を忘れずに持ってきて、自ら朝一番に提出することができました。 ・早退する際、携帯電話での電話のかけ方を練習してから下校し、家に到着後しっかりと学校に報告することができました。 ・校内学力調査の３教科（国語・数学・英語）を受けました。 ・藤の子進路学習会に参加し、進路などについて考えることができました。

４ だれ一人とり残さない支援

令和８年度より「適応指導教室『藤の子教室』」が「教育支援センター『藤の子教室』」となった。今まで以上に学校と情報のやり取りを増やし、教育支援センター機能を拡充している。

・アウトリーチ支援
毎月１回不登校支援会議を開き、不登校児童生徒、保護者への支援について検討し、情報を各校へ発信する。（スクールソーシャルワーカー７名、藤の子職員６名、こども若者支援課１名、こども発達支援課１名、教育政策課１名の参加）
・保護者への支援
藤の子教室進路学習会（６月 25 日 255 人が参加）、不登校保護者の会（10 月 23 日予定）を開催し、保護者の不安を和らげるよう情報提供や相談会を実施している。
・登校支援教室指導員への支援
登校支援教室指導員を藤の子教室職員が訪問し、運営や指導法について共有して研修を行う。